

3-計画の内容

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

市内産農畜産物を食材として活用し、加工販売したいと考える企業や、横浜の農業の魅力を伝える活動を行う団体や市民等が増え、農業関係者以外の主体が地産地消の取組を実施する活動が広がっています。この動きをさらに拡大するため、市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」(※1)などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図るとともに、農と市民・企業等が連携する取組を推進します。

(1) 地産地消を広げる人材の育成・支援

● はまふうどコンシェルジュ等の地産地消を広げる人材の育成

講座の開催により、地産地消を広げるはまふうどコンシェルジュを育成します。また、飲食店からの市内産農畜産物の使用に関する相談などに対応し、「よこはま地産地消サポート店」(※2)への登録を促します。

● 市民等による主体的な地産地消の活動支援

はまふうどコンシェルジュやよこはま地産地消サポート店によるイベント開催など、主体的な地産地消の活動を支援します。

● 地産地消活動の情報交換の場づくり

生産者やよこはま地産地消サポート店、はまふうどコンシェルジュ、地産地消に取り組む市民・企業等をつなげる交流会等を開催し、ネットワークづくりを支援します。



はまふうどコンシェルジュ育成講座



はまふうどコンシェルジュによる地産地消講座



情報交換の場(食と農のフォーラム)



地産地消サポート店ステッカー

(2) 市民や企業等との連携

● 企業等と連携した地産地消の推進

地産地消を広げるため、地産地消に取り組む意欲のある企業からの相談などに対応し、地産地消のPRイベントの開催や市内産農畜産物を使用した商品の販売等、企業等と連携した地産地消の取組を推進します。

● 地産地消ビジネス創出の推進

地産地消に関係する新たなビジネスに取り組む市内中小企業等を対象に、ビジネスプランを策定するための講座を開催し、認定されたプランを支援します。

● 学校給食での市内産農産物の利用促進

小学校の給食メニューにおける市内産農産物の利用促進や食育の推進を図るため、企業などと連携し、学校給食での市内産農産物の一斉供給や、小学生を対象とした料理コンクールを開催します。



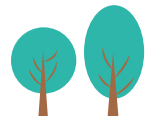
大学と連携した地産地消のPR



サッカーチームと連携した地産地消イベント



取組の目標



事業	取組	5か年の目標	備考
④	(1) 地産地消を広げる 人材の育成・支援	● はまふうどコンシェルジュ育成講座の開催：5回	
		● はまふうどコンシェルジュ・よこはま地産地消サポート店の活動支援：150件	
		● 地産地消フォーラムの開催：5回	
	(2) 市民や企業等との連携	● 市民や企業等との連携：75件	
		● ビジネス創出支援：20件	
		● 学校給食での市内産農産物の一斉供給：推進 ● 料理コンクールの開催：5回	

※1 はまふうどコンシェルジュ：横浜市が横浜の「食」と「農」をつなぎ地産地消を広めるため講座で育成した市民

※2 よこはま地産地消サポート店：市内産の農畜産物を使ったメニューを提供する飲食店などで横浜市に登録されているもの



市民や企業と連携した 市内産農畜産物の魅力発信



はまふうどコンシェルジュが開催しているマルシェの様子



地産地消ビジネス創出支援事業で支援した取組



● 高い市民力と多様な事業者の存在が強み

横浜市には、はまふうどコンシェルジュをはじめとした食や農に関心の高い市民や、食品加工業、流通業、ホテルや飲食店などによる様々な地産地消の取組が行われています。

● 市内産農畜産物が味わえるレストラン等が多数

近年では地産地消への関心の高まりから、新鮮で旬な市内産の野菜や果物、卵などの畜産物を食材として取り入れるレストラン等が増えています。横浜市では、市内産の農畜産物を多くの方々に味わっていただくために、これらの飲食店等をよこはま地産地消サポート店として登録し、市民の皆様へ情報発信するとともに、よこはま地産地消サポート店の拠点としての機能を生かした取組を支援しています。

● 様々な連携・ネットワークにより 新たな取組や商品が誕生

こうした多数の市民・企業等と連携した取組を強化し、そのネットワークづくりを支援・充実を進めています。そして、市民や企業等と連携した6次産業化^(※3)の推進や地産地消ビジネス創出の支援につなげ、新たな取組や商品が誕生しています。



※3 6次産業化：農林漁業者（第1次産業）が、加工（第2次産業）・販売（第3次産業）まで関わった取組や農商工連携の取組など